

教育学部養護教諭養成課程(教職科目)カリキュラムマップ					
養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基盤としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身に付けた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 教職に関する専門的な知識・技能 教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 日本国憲法に関する基本的な理解 心身の健康に関する基本的な理解と態度 人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 英語を用いて意思を疎通させる能力 情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 教育実践を通じた子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 教員としての社会性や対人関係能力 社会貢献への強い意欲 学び続ける姿勢				
年次	授業科目	到達目標	教育目標1:教育 学部では、力量 のある質の高い 教員養成を主眼 とする。	教育目標2:教育 学部では、課程 専修分野ごとに 専門的教育を行 い、教職の専門 性と学問・文化 の専門性の両方 を修得させる。	教育目標3:卒業 要件として教員 免許の取得を必 修とし、教員免 許・資格の取得 に必要な教育課 程を編成する。
1	教職入門Ⅰ	・今日の学校や教育が抱えている課題を、社会と関連づけて捉えることができる。 ・教師が担う教育的役割を理解し、教育の可能性について考えることができる。 ・教師が果たす社会的な使命について自分の考えを持つことができる。	◎	○	◎
	教育学概説A(本質)	「教育」とは何かについて、その思想と歴史的展開の視点から理解を深めること。	◎	○	◎
	教育学概説B(制度)	「教師」という存在を通して、学校や地域との関わりの中かで教育制度をとらえる視点を持ち、そのしくみと歴史的展開について理解を深めること。	◎	○	◎
	特別活動論	生徒が成長するための「特別活動」とは何かを理解し、そのための教師の役割について考えられるようになる。	◎	○	◎
	教育心理学概説	心理学の基礎的知識を学び、教育への活用法を考える力を養う。	◎	○	◎
	ICT活用の理論と実践	・学校教員として、教授活動全般および学級・学校経営における問題解決の手段の一つとして情報技術を活用することができるICT活用指導力を高めるための見方考え方を知る ・学校教員が持つべき資質能力の一つとしての情報活用能力として、手段と目的を区別する見方、教育目標のよりよい達成のためにICT活用の考え方を知る ・実際によりよい教育目標達成のためにICT活用を工夫した授業の設計と模擬授業の実習体験を通して座学での学びを深める	◎	○	◎
	総合的な学習指導法	総合的な学習の理念について深く理解し、発展的な総合的な学習の実践に結びつくような教材開発、カリキュラム開発の方法を身に付ける。具体的な実践例などを吟味しながら、身近な素材や、地域の自然・社会・課題などの探究について学び考え、指導法の実践について理解を深める。	◎	○	◎
2	教育方法・課程論	教育方法学の基礎理論を学び、方法の分析、批判、反省、構成の力を養うことを目標とする。	◎	○	◎
	道徳教育論	「特別の教科 道徳」が設置された社会的背景を理解する。その上で今日求められる学校内外における道徳性の教育の本質について理論と実践の両面から考察を深める。最終的には教職についた時に道徳性の教育をどう進めるかの具体的なイメージが持てる。	◎	○	◎
	生徒・進路指導論	・児童、生徒にとっての学校の意味と、そこでの活動及び生徒指導と進路指導について理解する。 ・教師にとっての生徒指導と進路指導の意味について理解する。 ・地域社会の中での子どもの育ちとそこでの支援について理解する。 ・教育における心理学の知見を理解し、今までの自分の経験と結びつけて考える。	◎	○	◎
	教育相談	教員として困難な事例に出会った時に専門家にリファーするか、自分で対応できるかの判断がつくこと	◎	○	◎
	保健科指導法A	保健授業内容の特徴と授業構造について理解する。	◎	○	◎
	保健科指導法B	中等教育を中心とした保健科教育内容・教材等の研究動向について理解する。	◎	○	◎
3	特別支援教育基礎論	国際的に求められているインクルーシブ教育を理解したうえで、現状の特別支援教育の理念や意義、および、そのシステムの概要を理解する。 ①障害という状態や概念について理解し、国際的に求められているインクルーシブ教育について理解する。 ②障害者差別解消法で規定される合理的配慮について理解する。 ③特別支援教育の理念、システムについての基礎的な事柄を理解する。 ④特別支援教育の対象となる障害の特性および基本的な支援の枠組みについて理解する。 ⑤障害はないが、特別的教育的ニーズのある子どもたちについて理解する。	◎	○	◎
	基礎実習	指導案を作成し、模擬授業を実施する。	◎	○	◎
	保健科指導法C	中等教育を中心とした保健科教育内容の理解と・教材等の研究動向について理解する。	◎	○	◎
	保健科指導法D	模擬授業をととして、実際の授業への応用力を習得する。	◎	○	◎

4	教職実践演習(養護教諭)	①養護教諭なるための自身の課題を分析し、課題を達成するための方策を述べるができる。 ②教員を目指す他講座の学生、指導主事、養護教諭経験者等とのディスカッションや模擬事例を通したディスカッションをとおして、求められる養護教諭像を探求し表現することができる。	◎	○	◎
---	--------------	---	---	---	---

教育学部養護教諭養成課程(専門科目)カリキュラムマップ					
養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基盤としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 教職に関する専門的な知識・技能 教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 日本国憲法に関する基本的な理解 心身の健康に関する基本的な理解と態度 人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 英語を用いて意思を疎通させる能力 情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 教育実践を通した子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 教員としての社会性や対人関係能力 社会貢献への強い意欲 学び続ける姿勢				
年次	授業科目	到達目標	教育目標1:教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標2:教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標3:卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
1	衛生学・公衆衛生学A	衛生学・公衆衛生学での基本的知識と考え方を習得すること	◎	◎	○
	小児保健学	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。	◎	◎	○
	養護概説	①養護教諭の職務の法的根拠及び職務内容遂行のための基礎的知識を理解することができる。 ②子供の健康課題や学校の状況に応じた養護活動の工夫を考察し、表現することができる。 ③①②を通じて養護教諭の役割への理解を深め、自身の目指す養護教諭像を表現することができる。	◎	◎	○
	栄養学(食品学を含む)	食品に含まれる栄養素が、ヒトの健康維持に果たす役割を知り、健康の維持・増進や疾病予防に応用できる力を身につける。	◎	◎	○
	解剖生理学A	人体の基本的な構造や機能の知識を得ることで、自分たちの身体で起こっている現象を理解し、説明できるようになる	◎	◎	○
	解剖生理学B	様々なライフステージや病態における人体の構造や機能を理解し、教育現場で臨機応変に事態に対応できる知識を身につける。	◎	◎	○
	解剖生理学実習	人体の基本的な構造や機能について、実際に体験することで人体についての理解を深める。	◎	◎	○
2	衛生学・公衆衛生学B(予防医学を含む)	衛生学・公衆衛生学の基本的知識と考え方をさらに深めたうえで、自ら衛生学・公衆衛生学に関連した特定のテーマ・課題に対して情報収集・検討・考察・発表・討論する基礎的スキルを身に着けること	◎	◎	○
	健康行動論	行動科学や健康科学の視点を活用し、養護教諭として有効な保健指導や健康教育を行うための知識・技能を身に付ける。	◎	◎	○
	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)	児童生徒の現代的な健康課題および、学校保健・学校安全の基本的な考え方を理解する。	◎	◎	○
	学校保健活動論	様々な学校保健活動の実践について、具体的に理解している。	◎	◎	○
	学校保健調査法	学校における健康情報の活用や、アンケートの実際とデータ集計・統計手法に関する知識・技能を身につける。	◎	◎	○
	養護活動論	①養護教諭が行う保健管理(主に健康診断について)保健教育における法的根拠、科学的根拠を理解する。 ②模擬健康診断、模擬保健指導において学校種、子供の健康課題に応じた工夫し、それを発表することができる。	◎	◎	○
	薬理概論	近年養護教諭は、学校現場での薬剤扱いに加えて、児童生徒に対する薬教育が必要となっている。 従って、本講義を通して、薬の体内代謝や効果について基礎的な知識が理解できるようになる。 また、薬教育や学校環境衛生における学校薬剤師との連携は養護教諭の職務である。 従って、学校薬剤師の職務を理解し、養護教諭としてどのように連携するかについて理解できるようになる。	◎	◎	○
	微生物学(免疫学を含む)	微生物の生態と人体の健康に及ぼす影響及び、生体防御機能を担う免疫機構について学び、感染予防について理解する。	◎	◎	○
	精神保健	精神衛生及び精神健康についての基本的知識と考え方を習得する	◎	◎	○
	救急処置	1.学校救急処置活動の基本的事項について説明できる。 2.学校救急処置の基本的な技術を実践できる。 3.児童生徒に多い傷病の特徴を理解できる。	◎	◎	○
	救急処置実習	1.学校救急処置の基本的な技術を実践できる。 2.学校救急処置過程に準じて児童生徒対応ができる。 3.心肺蘇生法、AED除細動器の取り扱い、三角巾法を体得する。	◎	◎	○

	臨床医学概説A	小児科領域疾患の病態生理および治療・ケア方法に関する知識を習得する。 児童生徒の日常の健康問題に対して科学的根拠に基づいて判断する感覚を身につける。	◎	◎	○
	臨床医学概説B	歯科および成人を領域を含む疾患の病態生理および治療方法に関する知識を習得する。 児童生徒の日常の健康問題に対して科学的根拠に基づいて判断する感覚を身につける。	◎	◎	○
	児童福祉論	・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ(子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。 ・児童・家庭福祉制度の発展過程や児童の権利について理解する。 ・教育・支援において必要となる児童・家庭福祉制度について理解する。 ・教育・支援において必要となる児童・家庭福祉に係る福祉・保健サービスについて理解する。 ・児童・家庭への相談活動の実践について理解する。	◎	◎	○
3	学校保健研究C	力量ある養護教諭をめざして、研究方法とプレゼンテーションの学習から、研究を実施するうえでの知識とスキルを獲得する。	◎	◎	○
	学校保健研究D	力量ある養護教諭をめざして、研究方法とプレゼンテーションの学習から、研究を実施するうえでの知識とスキルを獲得する。	◎	◎	○
	健康相談活動論	①養護教諭が行う健康相談の考え方とそのプロセスについて説明することができる。 ②事例で提示した児童生徒の状況を的確にアセスメントをしたうえで、連携を考慮して相談の計画を立案することができる。 ③健康相談と保健指導のつながりを理解し、健康相談の計画において保健指導の視点を加えることができる。	◎	◎	○
	健康相談活動演習	①様々な児童生徒の健康課題の解決に向け、事例において、児童生徒の状況を身体面・心理面・社会面からアセスメントをすることができる。 ②①を踏まえて、事例において、関係者との連携の意義と方法について説明することができる。	◎	◎	○
	学校看護学	1.フィジカルアセスメントの重要性が説明できる。 2.フィジカルアセスメントに共通する基本技術を理解できる。 3.子どもの症状、訴え別、具体的な事例に対して、アセスメントと判断、対応を説明することができる。 4.健康が障害された子どもと家族の経過を踏まえた看護を考察できる。	◎	◎	○
	学校看護学実習	1.フィジカルアセスメントに共通する基本技術を実践できる。 2.養護教諭として根拠をもってフィジカルアセスメントが実施できる。 3.子どもの症状、訴え別、具体的な事例に対して、的確にアセスメントと判断でき、対応することができる。 4.健康が障害された子どもと家族の経過を踏まえた看護を考察できる。	◎	◎	○
	臨床実習	ガイダンス時に配布する実習要項を参照してください。	◎	◎	○
4	卒業研究(論文)	論文作成の基礎知識を習得し、卒業論文を作成する。	◎	◎	○